

平成30年度入学生用カリキュラムマップ

【薬学研究科 薬学専攻 博士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 △ディプロマ・ポリシー達成のため望ましい科目													
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2
18DPHM1101	論文作成研究	1-4	十分な調査をもとに、指導教員と協議の上、臨床現場や医療薬学に関連する研究課題を決定し、適切な研究指針に基づき、実験・評価方法を立案、実践する。さらに結果を分析し結論を導くとともに、その内容を発表し、質疑応答に対応できる高度な能力を修得することを目的とする。	1) 調査によるエビデンスに基づき、適切な研究課題を提案できる。 2) 適切な実験・評価により得られた結果を論理的に解析し、正しい結論を導くことができる。 3) 研究成果を纏め、わかり易く発表し、質疑応答に適切に対応することができる。	△	△												
18DPHM1201	演習 I	1	講義で学習した専門的な知識に加えて、研究課題に関連する研究技術に関連する文献や成書の内容を学習することで、研究に必要な基本的な研究手技やデータ解析力を修得し、臨床現場を想定した課題解決能力や研究実践のための知識や技能の基盤を構築することを目的とする。	1) 関連文献や成書の情報から研究課題の実験方法の妥当性を説明できる。 2) 研究課題に関する成果・問題点を列挙できる。 3) 研究課題の成果の概略を纏め発表できる。	△	△				◎	◎	○	◎	○	○			
18DPHM2202	演習 II	2	講義、演習 I および論文作成研究の成果を踏まえ、研究論文調査や疫学調査を継続するとともに、研究課題の目的、実験方法、結果の解析、解釈についての妥当性を多角的に評価し、その研究結果を纏め、適切に発表し質疑応答できる技能を修得することを目的とする。	1) 課題研究に関する成果・問題点を、関連する参考文献の内容や調査結果と総合的に関連づけて纏めることができる。 2) 課題研究の成果の概略を纏めて発表し、適切に質疑応答ができる。	△	△				◎	◎	○	◎	○	○			
18DPHM3203	演習 III	3	講義、演習 I、II の成果や論文作成研究の成果を基に、関連した研究論文や疫学調査を詳細に調査し、確立した研究課題について、適切な実験・評価方法を用いて積極的に実験・調査を継続し、成果・課題を纏めるとともに、研究結果の解釈を正しく行う。その内容を発表し質疑応答に対応できる能力を定着させることを目的とする。	1) 研究課題に関する成果が関連領域に及ぼす効果や汎用性について説明できる。 2) 研究課題の問題点について具体的な解決策を提案できる。	△	△				◎	◎	○	◎	○	○			
18DPHM1301	個別化医療学特論	1	医薬品は平均的な患者に対して、最適になるよう開発されているが、適応する患者は多様性に富んでいる。したがって、有効性を確保しつつ、安全性を保つ薬物治療を行うには、個別化投薬が必要となる。本科目では、個別化投薬の意義と科学的な個別化投薬法について、原著論文を用いて学習することで、臨床の薬物治療に応用できる知識・技能を修得することを目的とする。	1) 個別化投薬の概念およびその基盤となる機序、手段などについて説明できる。 2) 個別化投薬の臨床応用について討議できる。	◎	○	◎				◎	◎			△	△		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 △ディプロマ・ポリシー達成のため望ましい科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2						
18DPHM1302	臨床疾病治療学特論	1	代表的な疾患について、病態、代表的薬物治療、先端薬物治療、さらに病棟業務や患者管理の中で、薬剤師が薬学的介入を行うための基本的な知識と技能を修得することを目的とする。	1) 精神疾患、感染症、糖尿病などの内分泌疾患、循環器疾患等の薬物療法に関する基本的な知識と薬物の効果・副作用について列挙できる。 2) 患者のバイタルサインなどを考慮して薬物の投与計画を策定する意義とその具体的方法を例示できる。	◎		○	◎		◎	◎			△	△
18DPHM2303	化学療法学特論	2	がんの化学療法について、主ながん化学療法のレジメンをもとに効果・副作用について講義するとともに、抗がん剤の暴露や暴露防止のガイドラインなどについても講義を行い、化学療法についての全般的な知識を修得することを目的とする。	1) 抗がん剤の効果・副作用を列挙できる。 2) 抗がん剤の副作用に対する対策について説明できる。 3) 抗がん剤の曝露対策を含め、チーム医療の中での薬剤師の貢献について説明できる。	◎		○	◎		◎	◎			△	△
18DPHM1304	感染症治療学特論	1	抗菌剤やワクチンといった微生物、ウイルスに対抗する手段が発達した現代においても、新興・再興の感染症が出現し、感染症克服は医療における重要課題である。本科目では、主要な感染症に対して病原体の性質を学び、患者の病態に基づいた治療法の必要性について理解することを目的とする。	1) 感染症の原因となる病原体の特徴、伝播形式、宿主との相互作用を理解し、説明できる。 2) 個々の病原体による感染症治療法について説明できる。	◎		○	◎		◎	◎			△	△
18DPHM2305	薬効・毒性評価学特論	2	医薬品の前臨床試験、臨床試験、大規模臨床試験などのデータをもとに、それらの有効性および安全性について適確に評価するための知識や技能を修得することを目的とする。	1) 薬効の強い代表的医薬品について例示し、その特徴や作用機序を説明できる。 2) 毒性が強い代表的医薬品について例示し、その特徴と毒性発現の機序を説明できる。	◎		○	◎		◎	◎			△	△
18DPHM1401	健康予防栄養学特論	1	栄養状態は、患者個々の疾病からの回復に深くかかわっている。本科目では、多くの疾病について環境因子である栄養が関わっていることを包括的に理解するための知識を修得することを目的とする。	1) 疾病予防と具体的な栄養素との関わりについて説明できる。 2) 病態に及ぼす各種栄養素の役割を例示できる。			◎	○	◎		◎	◎		△	△
18DPHM2402	レギュラトリーサイエンス特論	2	医薬品開発は、有効かつ安全な新規医薬品を迅速に患者に届けることが必要である。そのためにはその評価システムが重要となってくる。本科目では、医薬品の有効性、安全性を評価し、医薬品開発、承認審査および薬事行政の科学的基盤を理解することを目的とする。	1) 医薬品開発のプロセスとそれに関わる承認審査、薬事行政などについて説明できる。 2) その背景となる科学的基盤について説明できる。			◎	○	◎		◎	◎		△	△
18DPHM1403	コミュニティーファーマシー特論	1	医療環境の変化にともない地域医療の重要性が明らかになってきている。コミュニティーファーマシーは地域医療の充実に不可欠である。本科目では、薬剤師に関する法規や医薬分業、セルフメディケーション、在宅医療などコミュニティーファーマシーの業務を理解し、医療のなかのコミュニティーファーマシーの在り方について学ぶことを目的とする。	1) コミュニティーファーマシーの業務、在り方を理解できる。 2) 地域医療における薬剤師の果たす役割を例示できる。			◎	○	◎		◎	◎		△	△

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 △ディプロマ・ポリシー達成のため望ましい科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2					
18DPHM2404	医療保険制度特論	2	医療保険制度は医療政策の要である。我が国の社会保障制度の中での医療保険制度について学び、さらに諸外国の社会保障制度のなかの医療制度について修得し、国際比較を行いながら日本の制度の問題点を理解することを目的とする。	1) 日本の医療保険制度の現状、問題点および課題等を説明できる。 2) 医療保険制度と診療報酬の関係を説明できる。 3) 社会保障制度の国際比較が説明できる。		◎	○	◎		◎	◎		△	△
18DPHM2405	漢方処方学特論	2	漢方処方、複雑な病態に対応して一定の原則のもとに適切な薬物を選択し配合するものである。本特論は臨床によく使われる処方の組成原理、臨床応用ポイントを修得し、漢方処方の最新研究動向を把握することを目的とする。	1) 代表的な病証の診断、処方の応用、処方構成する各生薬の効能およびその相互作用について理解できる。 2) 漢方処方の合方、漢方処方と西洋薬との相互作用および最新研究成果を例示できる。		◎	○	◎		◎	◎		△	△